

第 10 回 金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会 開催記録【概要版】

- ◆「第 10 回金沢自転車ネットワーク形成に向けた勉強会」を 11 月 14 日（土）に開催しました。
- ◆新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン開催とし、県内外から多くの方にご参加いただきました。
- ◆基調講演や金沢での取組事例の報告をはじめとして、パネルディスカッションでの意見交換を行いました。

- ・開催日：令和 2 年 11 月 14 日（土）13:30～16:45（受付開始：13:00）
- ・会場：オンライン配信
- ・主催：金沢自転車ネットワーク協議会
- ・テーマ：「自転車の多様な活用可能性を学ぶ」
- ・参加者数：76 名（オンライン参加 51 名、会場参加 25 名）
- ・プログラム：

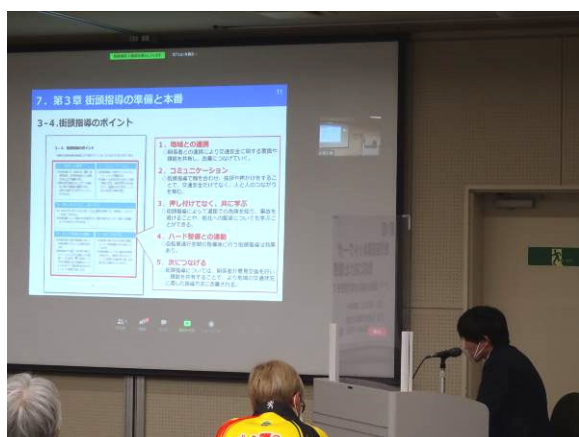
1) 開会挨拶 ・金沢大学 名誉教授 高山 純一 （金沢自転車ネットワーク協議会 会長）	13:30～13:40
2) 【第一部】基調講演・金沢での取組報告（100 分） (1) 基調講演：「 共創（Co-Creation）で生み出す豊かな社会 ～自転車の活動を通じて見えてきた、社会に必要なものとは～」（50 分） 講師：ウィーラースクールジャパン代表 ブラッキー 中島 隆章 (2) 金沢での取組報告（40 分） ・「街頭指導マニュアルについて」 発表者：金沢河川国道事務所 調査第二課 ・「石川県における自転車施策について」 発表者：石川県 道路整備課 ・「公共シェアサイクルまちのりの取組」 発表者：金沢市 歩ける環境推進課 (3) 質疑（10 分）	13:40～15:20
3) 休憩	15:20～15:30
4) 【第二部】パネルディスカッション（70 分） ＜テーマ＞「自転車を通じた石川の魅力 ～after コロナ、with コロナを見据えて～」 ・コーディネーター：北陸大学 名誉教授 三国 千秋 （金沢自転車ネットワーク協議会 委員） ・パネリスト 石川県道路整備課 課長補佐 田中 清二 石川県サイクリング協会 理事長 岡本 勇 加賀まればと交流協議会 稲手 彰穂 NPO 市民環境プロジェクト 三津野 真澄 ・コメンテーター：ウィーラースクールジャパン代表 ブラッキー 中島 隆章 地球の友・金沢 三国 成子 （金沢自転車ネットワーク協議会 委員）	15:30～16:40
5) 閉会挨拶 ・国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所長 近藤 勝俊	16:40～16:45

▼【第一部】基調講演（ウィーラースクールジャパン ブラッキー 中島 隆章 代表）



- ◇「共創(Co-Creation)で生み出す豊かな社会 ～自転車の活動を通じて見えてきた、社会に必要なものとは～」と題して、これまでの自転車を活用した取組や、これからの社会における自転車の立場についてご講演いただきました。
- ◇子ども向け自転車教室ウィーラースクールジャパンを2007年より全国各地で開催するなど、自転車教育の普及に取り組んできたほか、自転車を活用したイベントや、サイクリストによる農地保全など様々な活動をしてきた。自転車はあくまでツールであって、人々が幸せに、かつ豊かに暮らすためにも自転車が持つ社会的な優位性をいかに上手く市民活動に組み込むかが「鍵」であると講演いただきました。

▼【第一部】金沢の取組①（国土交通省 金沢河川国道事務所 調査第二課 道田 係長）



- ◇「街頭指導マニュアルについて」と題して、自転車の街頭指導に関するマニュアルづくりについてご発表いただきました。
- ◇金沢市内では、多様な関係者が連携して継続的な街頭指導を行っており、街頭指導の意義や正しい自転車ルールを広めるための「街頭指導マニュアル」を作成中である。街頭指導の方法だけでなく、一般の自転車利用者の自転車交通安全教育にも役立つマニュアルになっており、ハード面とソフト面の両輪がかみ合うように取組を継続していきたいとご発表いただきました。

▼【第一部】金沢の取組②（石川県 土木部 道路整備課 八日市屋 専門員）



- ◇「石川県における自転車施策について」と題して、石川県が取り組んでいる自転車施策についてご発表いただきました。
- ◇金沢市内における自転車走行指導帯の整備として、金沢井波線及び倉谷土清水線の整備状況と今後の事後調査の予定をご報告いただきました。また、いしかわ里山里海サイクリングルートについては、統一した路面表示などのサイクリング環境の整備や、様々な媒体への情報発信を行っていることをご発表いただきました。

▼【第一部】金沢の取組③（金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課 西 主査）



◇「公共シェアサイクル「まちのり」の取組」と題して、令和2年3月よりリニューアルしたまちのりについてご発表いただきました。

◇新しい「まちのり」は、システムを変更したことにより、ポートや自転車の数が増えたことや、スマホアプリによる貸出・返却が可能になったことなど、旧まちのりからの変更点をご紹介いただき、リニューアル後の利用状況として、コロナの影響はあったものの、通勤や観光等での利用により増加傾向にあるとご発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション①（石川県道路整備課 田中 清二 課長補佐）



◇アンケート調査からわかった「いしかわ里山里海サイクリングルート」の利用状況として、コロナ禍で県外利用者が少ないことや女性の利用者が少ないことが課題だとし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で自転車の利用ニーズが高まる中、インターネットを活用した県内サイクリング情報の一元化などによる情報発信の充実が必要だとご発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション②（NPO 市民環境プロジェクト 三津野 真澄氏）



◇趣味の登山がコロナ禍でできなくなってしまったことがきっかけで自転車を楽しむようになり、能登を中心に全国各地をサイクリングしている中で気づいた点として、琵琶湖で利用したサイクルトレインが良かったため、石川県でも普及すれば良いと感じたほか、自転車を通して石川県の魅力を発見することができたにご発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション③（加賀まれびと交流協議会 稲手 彰穂氏）



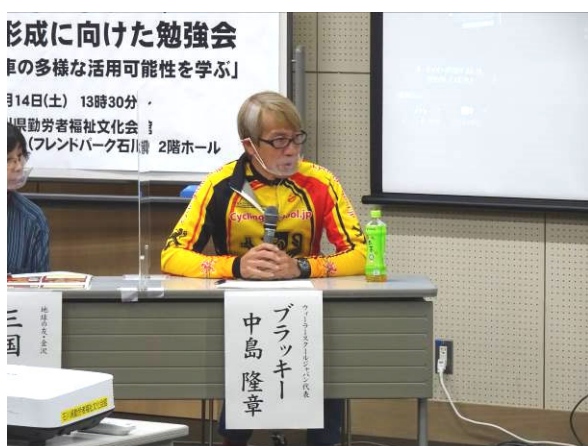
◇加賀市の魅力発信を行う「加賀まれびと交流協議会」の自転車利用環境向上に向けた取組として、温泉ライダーやウィーラーズスクールなどを実施し、特にウィーラーズスクールにおいては、以前ブラッキー中島氏の講演を聴いたことをきっかけに、ご本人に直接アドバイスをいただいている。先日にはサイクルステーションを設置したりと、「自転車のまち・加賀」の実現に向けて今後も活動していくとご発表いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション④（石川県サイクリング協会 岡本 勇 理事長）



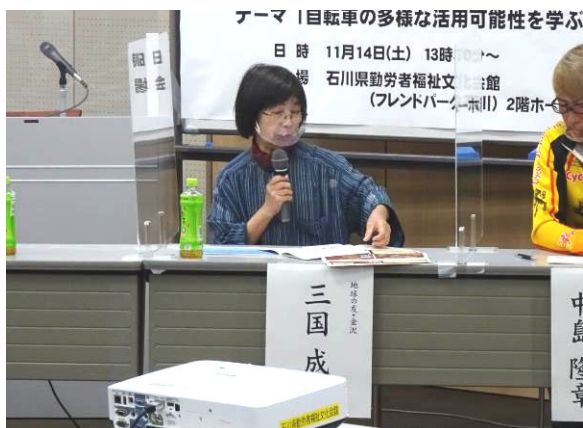
◇三津野氏のように、コロナ禍で登山やランニングが趣味の人が自転車に乗り始めた例は多く、サイクリストといっても、どのような用途で自転車を利用しているかを見極めることが重要である。また、海外ではコロナ対策として、自転車の利用を促すため、行政が自転車の購入費や修理費の補助を出したり、通行空間整備を積極的に速やかに行っており、日本も参考にすべき点だとご提案いただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション⑤（ウィーラーズスクールジャパン ブラッキー 中島 隆章 代表）



◇サイクリストにおいて男女比や年齢に偏りがあることは美山でも共通しており、20～30代の若年層の自転車の利用が少ないことに対して危機感を感じている。日本では、自転車の安全教育は行政や学校の役割とされる傾向があるが、デンマークでは、自転車の楽しみを教えることや最低限の教育は家庭や地域の役割だという認識があり、そのような環境であれば若年層にも自転車利用が広がるのではないかとコメントをいただきました。

▼【第二部】パネルディスカッション⑥（地球の友・金沢 三国 成子氏）



◇第 11 次交通安全基本計画の策定委員をしており、「ビジョン・ゼロ」の考え方を取り入れることを提案した結果、交通事故死者数及び重傷者数をゼロに近づけることを目指すことが明記されることになった。他にも第 11 次計画における重点施策として、地方版自転車活用推進計画の策定により、地域に合った自転車施策を推進することが定められ、自転車の交通安全対策に関する記述がより具体的になっているとご発表いただきました。